

木^{しっくい}喰と暮らそう

SHIKKUI LIFESTYLE MAGAZINE

漆喰の話をしよう

スペシャル・インタビュー

何度でも挑戦できる場所
ASIAN KUNG-FU GENERATION 後藤正文様

記憶の器
建築家 光嶋裕介様

漆喰うま〜くヌレールDIYレポート

初心者でもOK!の漆喰DIYで夢の拠点づくり

日本ブラスターのしっくい工事 File.09

静謐にして雄弁。漆喰壁の機能美。

.... and more

vol.9

FEBRUARY 2026

「漆喰と暮らそう」は、漆喰大好き!な日本ブラスター株式会社のコミュニケーション誌です。

代表からのごあいさつ

創立97年

日頃より『漆喰と暮らそう』をご愛読いただき、誠に有難うございます。

また、弊社漆喰製品や漆喰工事に対し格別のご愛顧を賜り、改めて心より御礼を申し上げます。

おかげさまでこの2月6日、弊社は創立97年を迎えます。

創立記念日を目前にし、

製造業の原点である「研究開発」「製品品質管理」ならびに「漆喰工事品質」の強化を徹底して行うことが肝要と、心新たにしているところです。

研究開発部の陣容を拡大し未解明な部分が多い漆喰の研究を持続的に行う一方、

本年より新製品を積極的に上市する予定です。

品質管理では製品・工事いずれも高精度のものをつくるため、

人材・設備への投資を一段と積極化いたします。

また、大変ご好評いただいている東京上野の「SHIKKUI Design STUDIO・TOKYO」と

「漆喰うま〜くヌレールLABO東京」は週2日の営業を変更し、

本年より毎週月曜日〜土曜日営業いたします(要予約)。

昨8月に開設した大阪豊中の「SHIKKUI Design STUDIO・OSAKA」と

「漆喰うま〜くヌレールLABO大阪」につきましても、

引き続き毎週月曜日〜土曜日営業いたします(要予約)。

東京・大阪いずれも数多くのお客様のご来場をお待ち申し上げます。



2025年をふりかえる

大阪支店の開設

大阪を中心に近畿東海エリアでの業務拡大に伴い、
大阪府豊中市に漆喰工事のショールームと
漆喰うま〜くヌレールLABOを併設した支店を開設いたしました。



漆喰工事受注拡大

おかげさまで、首都圏から東海近畿にかけて、
新築住宅中心に漆喰工事のご用命を一年通じて大変多くいただきました。
既に国内でも屈指の年間・漆喰工事量になっております。



漆喰うま〜くヌレール実演会・お試し塗り会の盛況

実演会の内容をダイナミックに変更して、
全国のホームセンター店舗で実演会を年間400回実施させていただき、
かつてない集客力で大変盛況でした。



漆喰うま〜くヌレールカーの稼働

“走る漆喰ショールーム” 漆喰うま〜くヌレールカーが日本中を走り、
全国のお客様に漆喰うま〜くヌレールのお部屋を実感していただけるようになりました。



漆喰壁による音響効果

漆喰壁には住む人を心地よくする音響効果があることが、
専門機関との共同研究の結果により判明しました。
かねてからこうした声を数多くいただいており実証しました。



私たちは、漆喰（しっくい）に夢中な会社です。
それは、住まわれる方々にとって、漆喰壁・天井は有益で魅力的だからです。
私たちはこれからも、
「漆喰うま〜くヌレール」はじめ数々の漆喰製品並びに「日本プラスターのしっくい工事」を
多くの皆様方にお選びいただき喜んでいただけるよう、
全社員でさらなる努力をまいります。
今後共倍旧のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

令和八年（二〇二六年）二月一日
日本プラスター株式会社 代表取締役 奥山浩司

深謝

何度でも挑戦できる場所

MUSIC inn Fujieda

ASIAN KUNG-FU GENERATION

後藤正文様スペシャル・インタビュー

世界的人気バンドASIAN KUNG-FU GENERATION(通称: アジカン)のボーカル&ギター、後藤正文氏が創立したNPO法人アップルビネガー音楽支援機構が、2026年3月に静岡県藤枝市に滞在型音楽スタジオMUSIC inn Fujiedaを始動させる。築130年の古い蔵を再生したスタジオと、同敷地内の居住スペースをリノベーションした宿泊施設には当社漆喰が使用されている。このプロジェクトにかける後藤氏の思いを、工事部部长 奥山が聞いた。



聞き手・
工事部部长
奥山 謙太郎

漆喰って

日本の伝統的なものだけあって、日本の気候に合った調湿性があるのがいい。

奥山: 遡りますと一昨年の8月に、私が個人的に行ったアジカンさんのライブで、後藤さんが「藤枝で蔵を改装してスタジオを作る」と話していました。藤枝市とは過去に空き家対策で漆喰うまくくヌレールのワークショップを行ったご縁があつて、蔵と言えば漆喰。そして漆喰は音にも良いということで、これは何かできるのではないかと、ライブから帰ってすぐに問い合わせのメールを送らせていただいたのが始まりですね。

後藤様: そうですね。最初の段階からこの土蔵スタジオの一面は漆喰にしたいって話が出ていて。それは見た目の面もそうだし、スクリーンとしても使えるので、漆喰がいいんじゃないかと。あと、湿度の面でも優位性があるのでいいよねって。だから本当にタイミングよく声をかけていただいて、渡りに船というか…縁としか言いようがないですね。

奥山: 本当にそうですね。私も、まさか仕事で後藤さんと関われるとは思っていませんでした(笑)。

後藤様: まさか、ゴツチのスタジオで漆喰の



ワークショップをやっているなんて思わないですよ(笑)。でも、人と人の繋がりがあって面白いですよ。僕らも音楽だけでは作品作りはできなくて、建物がないとダメだし、みんなの仕事が少しずつ関わり合って作品になっているので、それと二緒だなんて思います。

奥山：本当ですね。元々後藤さんは漆喰ってどんなイメージを持っていましたか？

後藤様：割と好きですよ。終始ひんやりしているイメージと言うか、妙に落ち着きますよね。あとは、楽器とかやっている湿度は一定の方がありがたいから、調湿効果っていうのは気になる。

奥山：やっぱり演奏をされる方ですと、調湿っていうのは重要なポイントなんですね。

後藤様：そう思いますね。日本って寒暖差があるので、結露とかすごするし。そういう時に湿気を吸ってくれるっていうのはすごくありがたい。楽器とかアンプの皮がカビたりすることもよくあるんですよ。その点、漆喰って日本の伝統的なものだけあって、この調湿性があるっていうのが本当にいい。

奥山：漆喰って湿気を吸うだけじゃなくて、カビにも強くて、壁に付着したカビだけではなくて、空間全体のカビを抑制してくれるという効果があるんです。

後藤様：そんな力もあるんですね。それはすごい。

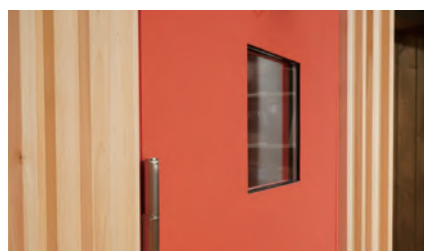
奥山：はい。スタジオなどにもおすめの素材ですね。調湿性が楽器に良いという

話がありました。が、実際に漆喰の家にお住まいの方からピアノの調子がいいですとか、楽器に関する良いお声をいただくことがあります。そこで、こちらのスタジオの設計にも関わっていらつしやる、日本音響エンジニアリングさんと、共同で音楽と漆喰の関係性について研究をしたところ、ビニールクロスに比べて漆喰の方が、特に高周波領域において音の残響時間が長く、部屋全体に満遍なく音が広がるということがわかりました。

後藤様：なるほど、漆喰だと音の響きが明るくなるってことですね。それは上手に利用したら響きのあるいい部屋になるってことですね。もちろん、響きすぎると感じることもあると思うので、たとえば「この部屋は音楽の部屋にして音を響かせたい！」という場所に使うといいかもしれないですね。

奥山：はい。今回、こちらのスタジオの施工を通じて、単純に音を響かせるだけではなく、吸収させることも必要と学びましたので、好みやポイントで考えていただけののがいいと思います。これまで、漆喰には調湿性の他に、抗菌・抗ウイルス性など7つの機能性があると私たちは伝えてきたのですが、ここに8つ目の機能性として音の響き加わったと考えています。

後藤様：なるほど。音が反射するというのはいいですね。木とは違う反射が作れるので、部屋の中の響きの複雑性を上げるのに、一面だけでも漆喰を使うことで優位性が見えてきますね。



普通に暮らしていたら分らない、
家づくりの”作る”過程に参加できることが素晴らしい

奥山：それでは、林檎酢会員※のみなさんに行った、宿泊施設のワークショップについても聞かせてください。今回、全員参加型でワークショップを行いました、後藤さんから見ていかがでしたか？

後藤様：とにかく参加者のみなさんが楽しそうだったのが一番良かったなと思います。特にスタジオってレコーディングをしないと来る機会のない場所なので、会員のみなさんが支援をしてくれたのはいいけど、スタジオだけだとどこに参加をしたのかよく分からなくなっちゃうところがあると思うから。こうやってみんなで一緒に塗って、「私がここを作った、僕が作った」みたいに言える場所が増えると、みんなの施設になるなと思って。みんなも本当にいい顔で作業していたし、本当に素敵な時間だったなって今でも思います。

奥山：ありがとうございます。私も参加された方から、すごくいい言葉をいただいたので、皆さまもとても喜んでいらっしやったのではないかなと思います。

後藤様：意外と家づくりのことって分からないことだらけと言うか、普通に暮らしていたら、注文して出来上がったところに入るだけって感じだけど、その作る過程に参加するってすごい。みんなもそれぞれ自分の家に対する愛着とかも変わるかもしれないし、宿泊スペースにしても気分が変わりますよね。自分で壁を塗ってみると、本当にいいことだ

なっていると思いました。

奥山：ありがとうございます。今回は漆喰やDIYに興味のある方というよりは、後藤さんやアジカンが好きな方に塗っていただいたわけですが、それでもみなさん非常に前向きに取り組んでいただけて、とてもありがたいなと思いました。後藤さんも実際に塗って頂きましたが、うまく塗れましたか？

後藤様：そうですね、難しいところもありましたけれど、でも、ある程度はうまくいったんじゃないかなと思います。

奥山：漆喰うましくヌレールは販売から20年以上経つのですが、たとえば古民家とか、空き家、中古物件に住まわれる方や、それを店舗へ改装される方などにおすすめてしています。

後藤様：確かに、安く抑えるためにペンキだけで済ませる人もいるかもしれないけど、調湿性という機能があるし、ひと手間上がるけど、その分愛着も増すので、やってみるといいなと思います。

奥山：スタジオのオープンが1月ということですが…

後藤様：1月はプレオープンですね。本格オープンは3月になると思います。

奥山：オープンに向けて、まだ途中のところもあると思いますが、音や見た目なども含めていいスタジオができそうという感触はございますか？

後藤様：そうですね。変わったものができて良かったなと思っています。ユニーク

であることが一番だと思っていました。建物はものすごく不思議で、音はめちゃくちゃ良くて。音も、どこでも録れる音だったら別にここに来なくても良くなるじゃないですか。だから、変わっているってことはとてもいいことなんですよ。完成という点においては、今ここで完成しているんじゃないかって、これからみんなで使いながらブラッシュアップしていきます。ドラムも一旦はここに置くんだけれど、本当にここがいいかは分からなくて。これからみんなで「この向きだと面白かったよ」、なんてことをやっていくんです。

奥山：建物自体は完成したけど、完成というのはあるのではないのか…。

後藤様：そうですね。ここを「どう使うのか」が本当に大事なところですね。

※林檎酢会員：アップルピネガー音楽支援機構を支援するミュージックサポーター。MUSIC in Fujiiedaのクラウドファンディングでは多くの支援金が集まり、そのリターンとして漆喰ワークショップをはじめとする各イベントが開催されている。



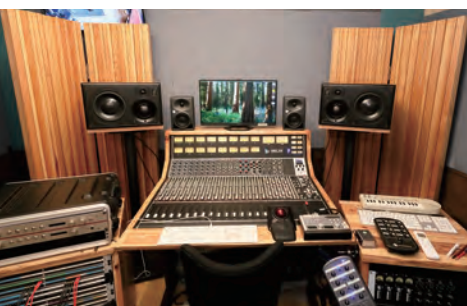
後藤様が漆喰を塗り、完成させた壁。

Photo: 八木咲



後藤正文氏

ASIAN KUNG-FU GENERATION ボーカル&ギター。
通称:ゴッチ。国内外で高い人気を誇るアーティストでありながら、未来を考える新聞「THE FUTURE TIMES」の創刊、新進気鋭のミュージシャンを発掘する作品賞「APPLE VINEGAR -Music Award-」の設立など、幅広い活動に取り組む。2024年、インディペンデントに活動するミュージシャン・アーティストに対して金銭的、技術的な支援を継続して行う特定非営利活動法人アップルビネガー音楽支援機構 APPLE VINEGAR -Music Support-を設立。



100年続いた蔵に作ったスタジオが、この先の100年も続いたら最高ですね

奥山：このようなスタジオを作って、後進を育てる。後藤さんご自身がそういった文化形成に気持ちが入られるきっかけというのはあったのですか？

後藤様：もともとエンジニアリングに興味があって、30代ぐらいから少しずつ時間とお金の余裕とかができて、40歳ぐらいから本格的に取り組むわけですが、そのあたりからインディーの若い子たちと作業する機会が増えてきました。

すると、今の子たちはお金がない。働きながらやっている子もいるけど、そうすると今度は時間がない。そういった状況を見るに、作品作りの現場ってフェアじゃない。経済的にも機会の面でもフェアじゃない。お金と時間がある人たちだけが豊かな環境を手に入っていて、これは何かちよっと資本主義の中で富が偏っているのと同じようなことが、音楽の

現場でも起きているなと思って。でも

これって、自分自身がエンジニアとして作品作りの手伝いをするようになって、初めて感じたことでもある。俺たちは成功したって顔でやっているけど、後

から続く人たちがその前に門前払いを喰らいまくっているという現実。俺が付けて、これは全然フェアじゃないし、才能のある奴も自分に才能があるってわかる前に帰らせられちゃう、これは絶対にやめなきゃいけないと。

奥山：そういう考え方がすごいなと、私も含めて多くの人が共感していると思います。

後藤様：才能があったとしても、財力の面で諦めちゃっている人、気づかない人がいると思いますよ。それを世の中みんなが受け入れちゃいけないと思う。ある程度スタートラインを揃えてもらった上で、

歳をとって差が出るのは努力の差とかがあるかもしれないですけど、せめて若い子たちは全員フルスイングでできなきゃダメでしょう、させてあげるのが大人の役割だろうと、常々考えているところではありますね。

奥山：そういうこともあって、後藤さんをお持ちの機材を提供されているんですね。

後藤様：そうです。あの機材も楽器も、使われることで価値が確認されるんです。僕が持っていて1週間で、1ヶ月とかしか使わないなら、毎日誰かが使ってくれた方が、その機材自体の価値も上がるはずなんです。漆喰の壁だってそうすよね、やっぱり現場にあつてこそ、その壁のある部屋で人が過ごしてこそ価値が生まれると思うんですね。

奥山：本当にその通りですね。後藤さんはここをどんなスタジオにしたいですか？

後藤様：僕らが死んでも続いてくれたら嬉しいですね。ここがこの街のレガシーとして残って、静岡のミュージシャンのみならず、色々な人たちに手渡されていくような存在になって欲しいですね。ここは100年以上保っていた土の蔵なんだから、このスタジオもまた100年続いてくれたら最高ですね。

奥山：最後になりますが、今年はアジカン30周年を迎えます。

後藤様：久々にアルバムを作ることになるでしょうし、ツアーもしながら創作もたくさんする予定です。音楽の一年、30周年の2026年になるかなって感じています。

奥山：ありがとうございます。これから

初心者でもOK!の 漆喰DIYで夢の拠点づくり

施工場所：キッチン、ダイニング、和・洋室、トイレ、脱衣所など内壁
使用色：白、若草色、特注お茶漆喰



Before

一部、壁紙の剥がれかけていた部分は除去。
それ以外は直接壁紙の上から塗ることで、手間を
省いてリフォームを完成させました。

After



和室は砂壁の上に直接施工。大人から子供まで、多くの人が取り組んだ
漆喰DIY。塗った人の数だけ生まれるコテの跡が、ここにかける多くの
人の熱い想いの数を表しています。

総勢144名による大規模DIY！笑顔が語る「作る」楽しみ。

2025年10月、4日間にわたって開催された漆喰うま〜くヌレールのワークショップ。アップルビネガー音楽支援機構の活動に賛同された会員様や地元の有志など、総勢144人が集まって静岡県藤枝市内にある3階建ビルのワンフロアをリノベーションしました。今回参加された方々は、漆喰に初めて触れる方ばかりでしたが、簡単な説明を受けただけで、すぐに皆
さま楽しそうに漆喰を塗り上げていま



アップルビネガー音楽支援機構
代表理事 小林亮介様

ワークショップを終えて

ここは「みんなのスタジオ」ですから、みんなで作り上げること、コンセプトをより体現できたと思います。今後はイベントなども開催して、地元から愛されるスタジオに育てたいと考えています。先日、完成した宿舎に泊まってみたのですが、漆喰の効果が朝起きたときに喉が乾燥していませんでした。これってミュージシャンにはもってこいの効果ですね。ここで生まれた曲が世界に羽ばたき、世界を豊かにしてくれる日を楽しみにしています。

した。大人も子供も、経験値も関係なく誰もが一緒に楽しめるのが、漆喰うま〜くヌレールのいいところ。完成したお部屋は宿泊施設として、同じ敷地内に立つスタジオで収録を行うミュージシャンの方々が利用されます。日本中に美しい音色を届ける、その夢を応援する多くの人の想いが詰まった夢の拠点となりました。

記憶の器



明治時代から残る蔵が、
最新の音楽を生み出す場所へと生まれ変わる。
MUSIC inn Fujiedaにて
レコーディングスタジオの設計を手がけた、
建築家の光嶋裕介氏がスタジオに込めた思いとは。

光嶋 裕介（こうしま ゆうすけ）

建築家・二級建築士、博士（建築学）。株式会社光嶋裕介建築設計事務所代表取締役。
代表作品は「凱風館」、「旅人庵」、「桃沢野外活動センター」など多数。
建築設計の他にも、NHK WORLD「J-ARCHITECT」の番組MCや、
「ガウディ×井上雄彦」特別展の公式ナビゲーターを務めるなど、
幅広い活動で建築の魅力を伝え続けている。

再生と革新の二重構造。 地域と共存するスタジオ。

今から2、3年前かな、後藤さんから
地元の藤枝にスタジオをつくるので、
設計をしてくれないかと声をかけら
れて。僕自身レコーディングスタジオの
設計は初めてだけど、後藤さんは全てを
僕に任せてくれた。まさに、MUSIC
inn Fujiedaの「何度でも挑戦
できる場所」というコンセプトそのもの
だと感じたので、萎縮せずとにかくいい
空間をつくることを考えました。

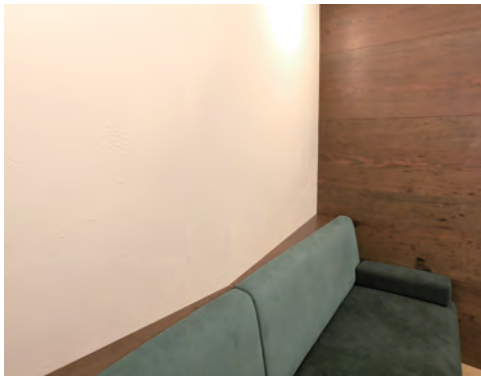
基本的には蔵をそのままスタジオに
する認識でしたが、住宅街の中にある
蔵だから、音漏れは最もデリケートな
問題で、近隣住民の方にうるさいと言わ
れたら、もうここでは経営できなくな
ってしまふ。しかし、一方でスタジオと
しては音が響いて欲しいわけで、この
矛盾を共存させないといけない。この
点が最初に立ち上がった挑戦でした
ね。音響のエンジニア、防音のエンジニア
と話し合いを重ね、ボックス・イン・ボッ
クス構造しかないという結論に至りま
した。



綺麗に改修された蔵の外観
からは、内にスタジオがある
とは思えない。

ボックス・イン・ボックスはその名前の
通り、箱の中に箱を入れる建築で、元々
の蔵がアウトボックスで、その中にスタ
ジオの箱（インボックス）が入っています。
この時、それぞれの箱は離れている必要
がある。どういうことかと言うと、スタ
ジオの壁と外側の蔵の壁の間に、3〜5
センチメートルの空気の層があって、この
空気の層が音の振動を止める役割を
果たしているという訳です。天井の梁に
ついては同様に、直接音が当たると梁を
伝って音が外に逃げてしまふので、空間
を開けてボードで覆い、漆喰を塗って仕
上げています。

床に関して説明すると、元々は石の上に
ボンツと乗っているような明治時代の蔵
だったので、まずは基礎をつくる必要が
あった。そこで、「揚げ屋」と呼ばれる、お城
や文化財を修復する際に使う技術を用い
て、建物ごと二メートル程持ち上げ、コンク
リートの強い基礎をつくりました。持ち
上げた建物を元に戻したら、今度はそこに
防振ゴムを敷き、インボックス用の小さい
基礎をつくる。古い蔵の改修をしながら、
同時に新しいスタジオをつくる、本当に
不思議な現場になりましたね。



お茶漆喰で仕上げたコントロールルーム。



外壁に通じる重要な梁は「隠して残す」。塗られている漆喰は、建築に宿るストーリーを重視する光嶋氏のリクエストに応え、藤枝市産のお茶のエキスを練り上げた特製「お茶漆喰」。同じ漆喰はコントロールルームと宿泊施設の壁にも使用されている。

蔵であることの威厳そのままに、これからも進化するスタジオの形。

ただ、ボックス・イン・ボックスである以上、内部の物理的スペースは限られているし、蔵の壁や外壁に通じる梁などは隠さざるを得ない。だから、使えるものは最大限に使う。この壁、この天井の向こう側に明治時代から残る蔵があることを想像させるよう意識しました。

スタジオに入る瞬間は異世界である蔵の中に入っていく感じを残したかった。で、入り口は天井が低く、洞窟に入っていくような感覚。そこにアップルビネガー音楽支援機構のキーカラーである赤に塗られた扉があつて、それを開けるとバーンと正面に漆喰の壁がある。この壁は早い段階からイメージがあつて、プロジェクトができるようにスクリーンとして考えています。ただ、全面白だと単調になるので、腰から下の部分は蔵の外壁と同じように、黒漆喰で仕上げてもらいました。

機能面で言うとはり音の反響と吸音のバランスが重要で、フラッターエコー(※)



漆喰壁の正面は、数種類の板材をランダムに貼り合わせた乱張り。窓の少ないスタジオ内が単調にならないよう、多くの陰影をつくる光嶋氏のこだわりが生み出した不揃いの美。結果的にこの乱張りによって、さまざまな周波数の音を跳ね返し、やわらかい音の表情になるという機能性まで兼ね備えた。

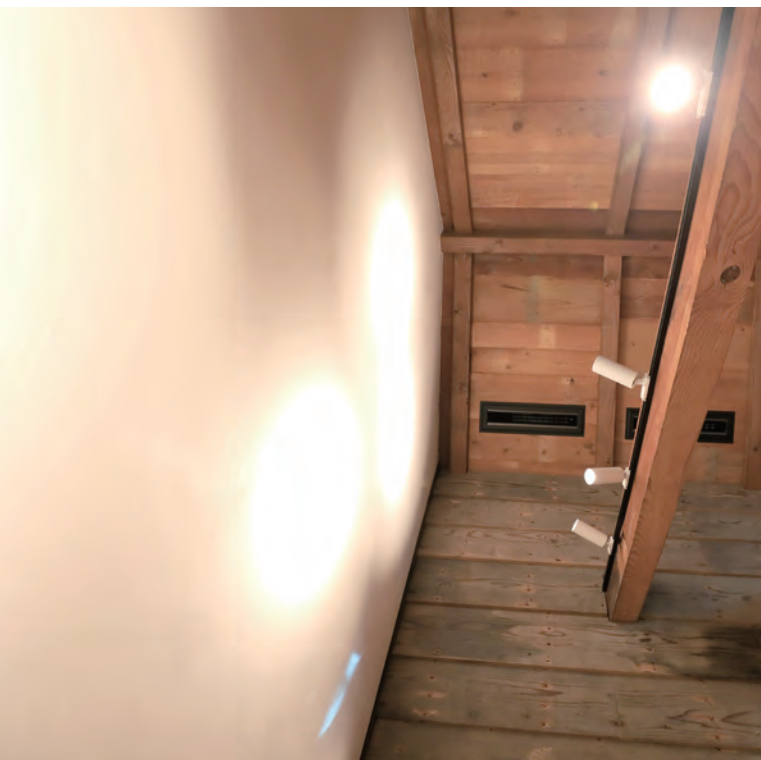
を起こさないようにするために、左右の壁は細かく角度をつけ左右非対称になっています。それは漆喰の壁も同様で、黒漆喰の部分は上の方向に5度傾けています。こうすることで、壁に当たった音は上方向に反射する。そして天井でまた反射し、左右非対称の壁でそれぞれ拡散して、まろやかに音が広がるという訳です。

ただ、これで完璧という訳ではなく、この先のスタジオでさまざまな音楽を演奏した時に、例えばジャズピアノだと音が響きすぎるだとか、女性ボーカルはいいけど、男性ボーカルだとちよつと違うとか、音によって響きが違うので、常にトライして調整していこうという考え方になっています。

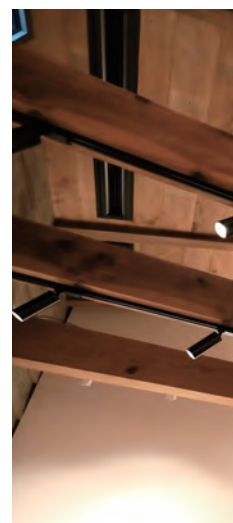
※向かい合った壁が並行な場合に、その間で何度も音がノイズとして反射してしまう現象。



林檎酢会員による宿舍のワークショップを見守る光嶋氏。「つくる」工程にコミットすることで、建築に対する愛着が深くなると語る。多くの人の手によって生まれ変わった建築は、ここで再び新たな時間を紡ぎだす。



天井板に残る明治時代のノコギリ跡。この面は既存の壁板の裏側を採用した。昔の名もなき大工たちの痕跡が魅力的だ。この蔵を建てた「人」が確実に存在したという証。これこそが建築に宿る、時間の定着だと言う。



蔵が紡いできた時間は、これからも脈々と続く。

建築を進めると思いがけないこともあって、例えば内壁を剥がしたら柱の外側に炭が汚れていました。どうやら、過去に火災があつて一部の壁は焼失していたらしい。それと、天井に使われている板は、かつては蔵の二階の壁だったのですが、よく見ると何か跡がありますよね。これ、昔の人が木材を切った際のノコギリの跡です。壁を解体したら、裏側にこの跡が残っていました。どちらも、外から見ていただけでは分からなかったけど、これこそがこの蔵の時間の蓄積というか、ここに染み込んでいる時間の重みです。

僕は日本で独立するまで、ドイツの設計事務所でも働いていました。ヨーロッパの建築の魅力は、建築に永い時間が定着していること。僕は「建築は記憶の器である」と学びました。一方で、日本はというとまだまだスクラップ＆ビルドの思考が強く、この点においては遅れていると思っています。

実はスタジオ設計の話をもらった当初、スタジオになる予定の蔵はことは別の大きな石の蔵でした。ところが、紆余曲折あってその蔵は別の方が買い取られ、今はもう解体されて新築の住宅が建っています。もちろん、新築が悪いということではないのですが、ちょっと不健全というか、もう少し地域で記憶をきちんと

継承する感性をみんなで育てられないかと思うわけです。

だから僕はこの「建築は記憶の器である」という物語を多くの人に伝えたいと思っています。今回、スタジオの隣にある施設の壁を、林檎酢会員のみなで漆喰うましくヌレールを塗り直しましたが、あれは僕がお願いをしました。みんなですることでもミュージシャンではない人にも、ここに深い愛着が湧き、後藤さんが塗った跡、自分が塗った痕跡が物語として蓄積されていく。

それと、冒頭に話した天井の梁を覆っている漆喰には、日本プラストーさんをお願いをして、藤枝市で採れたお茶を使った漆喰をつくってもらいました。何度トライ＆エラーをされたと思います。が、そうして試行錯誤した時間も重要だし、これが実現したことによって、この場所にスタジオが建っているという物語の必然性に強度が増しました。

こうやって多くの人が建築に対して愛着を持ち、たとえ短い時間でも建築を介して関わり合う。この経験がより良い生き方に繋がり、広がってほしいなと思います。そして、このMUSIC inn Fujiedaは、その可能性のひだが非常に多い場所だなと感じますね。

せい ひつ 静謐にして雄弁。 漆喰壁の機能美。

多くのミュージシャンが音楽を収録するスタジオに採用された当社しっくい工事。

このシンボリックな壁の施工について、当社工事部部长 奥山が語る。

工事…リフォーム

材料…漆喰くるむトラッド／特注お茶漆喰

仕上げ…鰻押さえ、ゆらり

プロフェッショナルな空間にこそ
相応しいプロの施工を。

築130年のお茶の蔵をリノベーションしたスタジオということで、スタジオの中においてもそのことを感じられるようにしたいというご要望と、壁にプロジェクトションをしたいというご要望から、スタジオに入って真正面にあたる壁の施工をお受けしました。当社しっくい工事はこのメインの壁の他に、蔵の梁を覆っている垂れ壁と、スタジオの外にあるコントロールルームの壁に採用されています。

実はこのお話をいただくのとほぼ同時期に、当社にて「漆喰と音響」の関係性についての、検証実験が行われていました。そこで、漆喰壁が音をよく響かせるという検証結果も出ておりましたので、音楽スタジオに漆喰壁を取り入れるというのは、とてもいい流れだなと感じていました。また、この音響検証実験の中で、音を美しく響かせるには壁は平滑であることが望ましいということも分かっていたので、「鰻押さえ」という最も平滑な仕上げることは、「蔵を感じさせる」「プロジェクトションを投影する」「音を響かせる」全ての面において矛盾なく、良い施工だったと思っています。

しかしながら、この「鰻押さえ」という仕上げはシンブルゆえに高い技術を要します。一面だけとはいえず、高い天井から床までの大きな面を、ムラなく均等に仕上げることは非常に緊張感のある現場でした。また、スタジオの設計で漆喰壁を真横から照らすライトが設置されています。壁は上または下方向からの光源を受けることが多いのですが、このスタジオでは真横という通常ではあまりない方向から光を受けます。それゆえに、普段では問題のない仕上がりでも、真横から光を受けると思いもよらない見え方をしてしまい、その違和感を無くすために、塗り直した部分もあります。多くの方が、このスタジオにかける想いを

知っていたが故に、一切の妥協をせずやり切らせていただきました。建築家の光嶋さんが、仕上がりを見て大きなガッツポーズと共に「最高！」と言ってくれたときは、本当に緊張感から解放されました。

物語る壁であること。その試行錯誤。

垂れ壁とコントロールルームの壁は特製の「お茶漆喰」を使用し、当社の仕上げ模様「ゆらり」で仕上げました。「お茶漆喰」については、この蔵が元々お茶の蔵だったことに由来しています。お茶どころでもある静岡県藤枝市のお茶の蔵が、スタジオに生まれかわるというストーリーを建築に取り入れたいという、光嶋さんからのご要望でした。

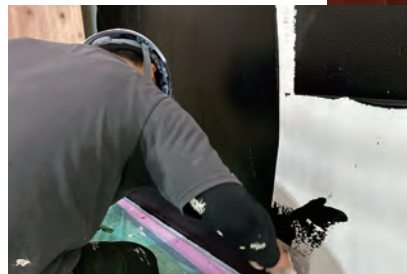
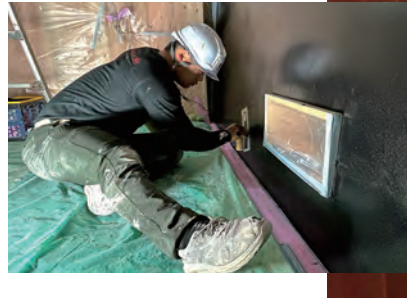
当初は単純に漆喰に茶殻を混ぜる構想でしたが、漆喰は薄塗りをするもので、茶殻が混ざりきららず仕上がりに凹凸ができてしまいました。また、茶殻から出る



アクも美観を損ねてしまいます。周囲の方からはそれでも良いと言われたのですが、冒頭に話したように、音にとつて仕上がりは平滑が望ましく、この凹凸はあまり納得がいかない。そして、美しさという点においても妥協できない。他にもいくつかの懸念点があり、一人で試行錯誤を繰り返していました。

この試行錯誤は施工の直前まで続きました。そんな中、当社の研究開発部のメンバーからお茶のエキスを漆喰を作るアイデアをもらい、挑戦をしたところとてもいい色合いに仕上がり「これだ！」と。そこからは研究開発部もプロジェクトに加わり生産に移りました。こうして無事に「お茶漆喰」が出来上がり、施工を敢行することができました。

たくさんさんの試行錯誤、徹底した完成度の施工。そしてスタジオそのものが背負っている意義や、関わる多くの方の想い。プロの方が最高の演奏をするこの空間に相応しい施工ができたことをとても嬉しく思います。これからこの場所で数々の音楽が生まれ、演奏されることがとても楽しみです。（工事部部长奥山謙太郎）



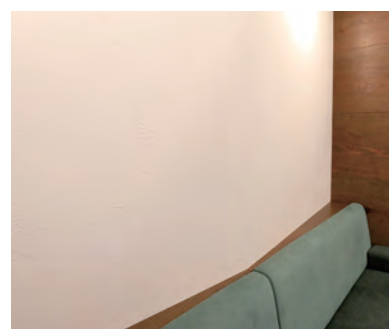
漆喰の施工では、気温・湿度・風など、あらゆる条件に気を配る必要があります。特に「錫押さえ」の工程は、ほんのわずかなタイミングの違いで仕上がりの質感が変わってしまうため、最も神経を使った部分です。

また、黒漆喰を施工した壁は傾斜がついているので、鏝のわずかな当て方の違いで表情が変わってしまいます。さらに、両脇に照明が入ることで光の反射によって仕上げのわずかなムラも目立ってしまうため、作業中はさまざまな角度から確認をし、均一な仕上がりになるよう細心の注意を払いました。

お茶漆喰を塗った垂れ壁は他の壁に比べて高い位置にあり、近くで見える場所ではありませんが、見えない部分まで綺麗に仕上げるからこそがプロフェッショナルの仕事だと常に心掛けています。高所で身動きが取りづらい状況など様々ありましたが、細部まで丁寧に仕上げることを意識して取り組み、こうしてスタジオが完成したことを嬉しく思います。



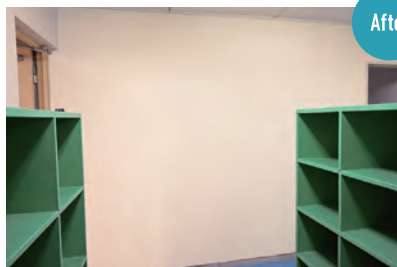
施工担当
二級左官技能士
工事部 青木純貴



地域とともに、日本の未来をつくる。 大阪支店、地元中学校の職場体験を実施。



Before



After

クリーム色の押さえ仕上げで、明るくあたたかみのある仕上がり。



2025年11月、当社大阪支店のほど近くにある豊中市立第四中学校2年生の生徒さん2名をお迎えし、職場体験を実施しました。当社ではこれまで様々な地域貢献活動を実施してきましたが、新天地・大阪支店では初めての取り組みとなりました。

職場体験は3日間。1日目は大阪支店「うま〜くヌレールLABO」で普段開催しているDIY教室を生徒さんに実施。漆喰についての座学・塗り練習の後、各々好きな色での漆喰キューブ作りを行いました。2日目・3日目は中学校のプールの更衣室の一面を漆喰うま〜くヌレールで塗り替え。今回体験した生徒さんが将来進路を考える際に、漆喰に携わる仕事を選択肢に入れてもらえれば嬉しく思います。

普段使用する更衣室の壁を通して、漆喰の機能性をより身近に感じてもらうきっかけになれば...という思いを込め、教職員の皆さんと2年生全員の約330名に大阪支店の資料とあわせて漆喰キューブをお配りしました。

職場体験は来年以降も継続して受け入れ予定です。今後も地域貢献活動ならびに社会貢献活動に積極的に取り組んで参ります。



参加した子どもたちは、もちろん漆喰塗りは初体験！それでも、笑顔で漆喰を塗り上げてくれました。このような小さな成功体験が、いずれ大きな未来を手繰り寄せます。



日本漆喰協会会長に 当社代表奥山が就任。

日本漆喰協会は、日本の伝統的な不燃建築仕上げ材である漆喰やドロマイトプラスターの普及、技術の向上、広報活動を通じて、設計および施工の業界との情報交換、連携を図り、日本の伝統的な左官工法による安全で健康的な建築文化を後世に継承していくため、1999年に設立されました。

2025年11月、この日本漆喰協会の会長に、当社代表取締役奥山浩司が就任。あわせて、当社研究開発部フェローの野口俊治も技術者として同協会技術委員会委員に就任いたしました。

日本中のお住まいを、漆喰を通じてより心地よく素敵にするべく、今まで以上にさらに全力で、誠心誠意！漆喰普及のために尽くしてまいります。



昨年11月に行われた総会の様子。日本漆喰協会では、若手の育成や製造・施工技術の向上などを通じて、さらなる漆喰の普及に日々取り組んでいます。

昨年も多くの方が当社工場を見学。
ただモノを作るのではなく、魅せられるメーカーを目指します。



「工場見学と聞いたので、最初はあまりときめかなかったのですが、実際に見たらとてもキレイですし、左官の技術も素晴らしいので本当に来てよかったです」。これは、当社工場へお越しいただいた、ハウスメーカー、インテリアコーディネーター様のお言葉です。

昨年は当社製品ならびにサービスをお取り扱いいただく、ホームセンター様、ハウスメーカー様による工場見学の受け入れが増加しました。当初は栃木県佐野市にある本社工場のみでしたが、昨年末には大阪支店でも同様の見学会が開催されるほどです。工場見学では、研究開発の現場や実際の製造現場をご覧いただき、さらには漆喰DIYの体験、当社しつくい左官社員による塗りのデモンストレーションなどをご覧いただきます。

漆喰・モルタルの製造を行うメーカーの工場に、これほど多くの方がお越しになり、冒頭のようなお言葉をいただけることは大変ありがたいことです。これからも「最高品質の魅せる工場」を目指します。



二級左官技能士が新たに2名誕生！
引き続き精進してまいります。



資格はお客様の信頼を得るためのものです。より信頼されるように現場で作業を行ってまいります。現場では、親しい人の家の壁だと思つて綺麗に仕上げるように心がけています。今回二級左官技能士を取得したので、より綺麗に仕上がるように努めます。

工事部 武井雅享

私たちはお住まいになるお施主様の笑顔を思い浮かべながら、日々丁寧に仕上げを行なっています。まだまだ未熟ではありますが、二級左官技能士であるという自覚を持ち、一軒一軒大切に漆喰壁を作り上げてまいります。

工事部 野原増晟

SHIKKUI FAN MAP

漆喰散歩

漆喰ファンによる、漆喰空間を楽しむ(fun)コーナー。
毎号漆喰空間が心地よいお店をご紹介します。
今度の休日にちょっとそこまで足を伸ばしてみませんか？

東京都杉並区 [Cafe POLEPOLE]

vol.9



飲食スペースは白色、キッチンはスモーキーブルー、そしてマープル仕上げのエントランスからトイレへ続く廊下。どの壁も見どころ満載で、店内を移動するだけでも楽しい空間。

西武新宿線井荻駅から徒歩約2分、静かな遊歩道沿いに佇む「カフェポレポレ」。まず注目していただきたいのは、入ってすぐの白、みず色、イエローの3色を組み合わせたマープル仕上げの壁です。「上野のLABOに行った際、この仕上げの壁を見て、これだ！と。カフェのカラーである3色で再現しました」(オーナーの高須様)。

店内の壁はもちろん、キッチンの垂れ壁や天井まで庄巻の漆喰仕上げとなっています。「施工には地元の方など20人ぐらいが携わっ

てくれました。カフェのコンセプトが、美味しい食を真ん中に、みんなで楽しく過ごすカフェ。なので、まちのみんなと連携できて本当に良かったです。みんなさん上手になっちゃって、速いし、うまいし(笑)。本当に漆喰にして良かった、漆喰以外考えられないです」(高須様)。オーナーの工夫とセンスが光る店内では、美味しい食はもちろん写真展やライブなど様々なイベントも行われ、舌も心も満たされる豊かな時間を楽しめます。

センスが光るこだわりの漆喰仕上げ。
笑顔集まるコミュニケーションカフェ。



Cafe POLEPOLE (カフェ ポレポレ)

東京都杉並区下井草5丁目19-19

営業時間 火～金 8:30～20:30
土・日 8:30～17:30
定休日 月曜日

ご予約など詳細は公式Instagramよりご確認ください。

画像提供: 写真家 minamiさん
Instagram: @reee.oi



人気のメニュー



2～3種類の素材を用い、シンプルなのに味わい深い美味しさが人気の日替わりパスタ。

ここがポイント



タワシで仕上げたという壁。みず色は雨、イエローは土、雨と土から様々なものが生まれる無限の白を表現しているそう。

「漆喰散歩」では、漆喰うま〜くヌレールでDIYをしたお店や施設を募集中です!!
ご提供いただいた情報は、本誌の他、SNS、公式サイトにてご紹介させていただきます。
掲載ご希望の方は、下記のメールアドレスまでご連絡ください。

「漆喰と暮らそう」についてのご意見・ご感想をお聞かせください▼

E-mail: info@plastesia.com

日本プラスター株式会社
WEBサイト

漆喰スタイル
WEBサイト

漆喰うま〜くヌレール
WEBサイト

漆喰うま〜くヌレール
Instagram



漆喰と共に97年

日本プラスター株式会社

<https://www.plastesia.com>

本社・工場

〒327-0311 栃木県佐野市多田町188-2 ・大阪支店 ・埼玉事業所
TEL:0283-62-6511(代) FAX:0283-62-8851 ・SHIKKUI Design STUDIO -TOKYO-/-OSAKA-

発行: 日本プラスター株式会社